

北方遊水池の沖積層から産出する 縄文時代の主な貝化石

腹足綱（巻貝）



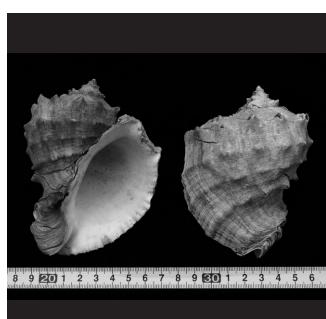
ウミニナ(ウミニナ科)
Batillaria mulri formis

内湾の泥底または砂底の干潟、その周辺の岩礁に生息。
市内の縄文時代の貝塚遺跡でも検出している。



ツメタガイ(タマガイ科)
Neveria didyma

浅海の砂地に生息。
市内の縄文時代の貝塚遺跡でも検出している。



アカニシ(アクキガイ科)
Rapana thomasiana
CROSSE

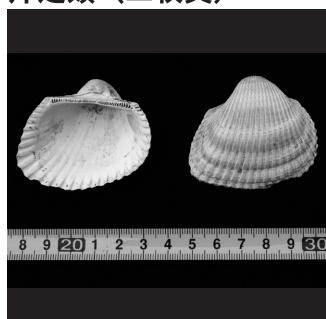
潮間帯より水深 20m の砂泥底にすむ。
市内の縄文時代の貝塚遺跡でも検出している。



ヤカドツノガイ
(ツノガイ科)
Dentalium hexagonum
GOULD

潮間帯より水深 20m の砂泥底にすむ。
縄文時代の貝塚遺跡で検出例あり。

斧足類（二枚貝）



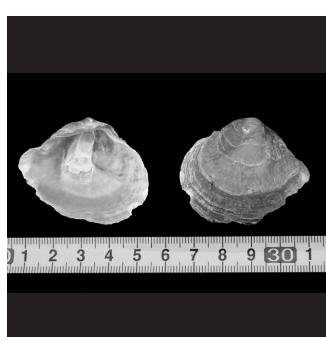
サルボウガイ(フネガイ科)
Anadara Subcrenata

潮間帯から 10m の深さにすむ。
市内の縄文時代の貝塚遺跡でも検出している。



ハイガイ(フネガイ科)
Anadara

潮間帯の泥底の干潟が発達した場所のみすむ。
市内の縄文時代の貝塚遺跡でも検出している。



ナミマガシワガイ
(ナミマガシワガイ科)
Anomia chinensis
PHILIPPI

潮間帯から 10m の深さにすむ。
市内の縄文時代の貝塚遺跡でも検出している。



チョウセンハマグリ
(マルスダレガイ科)
Meretrix lamarckii
DESHAYES

外洋の浅海の砂底にすむ。
縄文時代の貝塚遺跡で検出例あり。



カガミガイ
(マルスダレガイ科)
Dosinia japonica

潮間帯から 10m の深さの砂や泥底にすむ。
市内の縄文時代の貝塚遺跡でも検出している。



シオフキガイ
(バカガイ科)
Mactra veneri formis

潮間帯の砂泥底にすむ。
市内の縄文時代の貝塚遺跡でも検出している。

参考文献

- 吉良哲明 (1954),『原色日本貝類図鑑』240p 保育社
波部忠重 (1961),『続原色日本貝類図鑑』182p 保育社
杉原莊介 (1963),『市川市の貝塚』40p 市川市教育委員会
江坂輝彌 (1983),『化石の知識』考古学シリーズ 9 161p 東京美術
旺文社編 (1986),『貝と水の生物』野外観察図鑑 6 183p 旺文社
波部忠重・小菅貞男 (1996),『貝』エコロジン自然シリーズ 224p 保育社